

課題名	132 豚における地域未利用資源の有効利用	分類	②
	都市型飼料資源利用の実態		
試験研究年次	63～1年(完了)		
<p>I 目的</p> <p>肉豚飼料としての残飯、厨芥及び食品副産物等の都市型飼料資源の利用実態を明らかにし、飼養改善の資料とする。</p>			
<p>II 試験方法</p> <p>1 調査地区：福岡市、小郡市、久留米市、粕屋郡（久山町、須恵町、篠栗町）、浮羽郡（吉井町）…3市4町</p> <p>2 調査方法：5 農業協同組合の協力による現地実態調査及び聞き取り調査</p> <p>3 調査区分：1区（上物率ランク0～10%）…4戸、2区（11～20%）…4戸、3区（21～30%）…6戸、4区（31～40%）…3戸、5区（41%以上）…1戸</p> <p>4 調査期間：昭和63年9月～平成2年3月</p> <p>5 農家戸数：18戸</p> <p>6 調査項目：都市型飼料資源の種類、残飯・厨芥及び食品副産物の内容、残飯・厨芥と濃厚飼料及び食品副産物の配合割合、枝肉重量、枝肉の格付けと格落ち原因</p>			
<p>III 主要成果の概要</p> <p>残飯・厨芥の配合割合が高く、浮遊油が多い飼料を給与すると上物率は低下する。しかし、パン・うどん等の割合が増加するにつれて上物率が向上することが明らかになった。</p> <p>1 都市型飼料資源使用農家18戸の枝肉の平均上物率は19.8%で、県平均52%の半分以下と低かった。</p> <p>2 都市型飼料資源の収集場所別利用割合は食堂が28.1%と最も多く、次いで食品工場、病院の順であった。</p> <p>3 残飯・厨芥及び食品副産物の内容物の内訳は、飯類、パン類が中心であるが、給与飼料中の残飯・厨芥の割合が少なくなり、濃厚飼料と食品副産物の割合が多くなるほど上物率は向上した。</p> <p>4 残飯・厨芥中に浮遊油が多くあるほど、背脂肪が厚く軟脂発生割合が高くなり、並物の格付け割合が増加した。</p>			

IV 主要成果の具体的データ

第1表 都市型飼料資源の収集場所と利用割合

区	食品工場							
	食堂	ホテル	自衛隊	病院	学校給食	家庭	パン・うどん	トウフ粕
1	27.5%	5.0%	%	43.8%	16.3%	%	7.5%	%
2	55.0		25.0	12.5	5.0		2.5	
3	20.8	2.5	21.7	18.3	8.3		28.3	
4	16.7			3.3	3.3	33.3	36.7	6.7
5							100.0	
平均	28.1	2.0	12.8	19.2	8.1	5.6	23.3	1.1

第2表 残飯・厨芥・食品副産物の内容物(順位)

順位	1	2	3	4	5
1 区	飯類	麺類	肉類	てんぷら	野菜
2	飯類	野菜	肉類	麺類	魚類
3	飯類	パン類	麺類	野菜	魚類
4	パン類	飯類	麺類	野菜	トウフ粕
5	パン類	うどん	-	-	-

第3表 枝肉の上物率と飼料配合割合

区	平均		飼料配合割合		
	上物率	枝肉重量	残飯・厨芥	濃厚飼料	食品副産物
1	0.0%	83.3 kg	92.5%	0.0%	7.5%
2	15.3	74.3	70.0	30.0	0.0
3	23.6	71.8	63.0	23.7	13.3
4	32.8	72.6	43.0	34.2	22.8
5	53.9	73.6	0.0	50.0	50.0
平均	19.8	75.1	53.7	27.6	18.7

第4表 枝肉の格付けと格落ちの原因

区	格付けランク								浮遊油の割合
	格付頭数	上物	中物	並物	規格外	厚脂	軟脂	軟厚	
1	1,115頭	0.0%	3.6%	80.2%	16.2%	6.0%	1.4%	49.5%	1.5
2	736	15.3	58.6	24.7	1.5	9.5	35.3	20.8	0.5
3	3,522	23.6	50.0	21.3	5.2	19.6	16.9	14.2	0.5
4	1,166	32.8	46.5	17.3	3.4	13.1	12.8	11.6	0.3
5	308	53.9	39.0	6.2	1.0	17.5	5.5	6.2	0.0
平均		19.8	40.4	33.6	6.3	13.1	16.2	22.6	0.7

注) 浮遊油の割合は、2:多く浮いている 1:少し浮いている 0:浮いていない

V 成果の評価と取扱上の留意点

- 1 都市型飼料資源使用農家の飼養改善のための資料として活用する。

VI 今後の研究上の問題点

- 1 残飯・厨芥の浮遊油の除去方法の検討
- 2 軟脂肪発生防止物質の究明

VII 資料名